

備前市施策評価シート

(平成21年度事業)

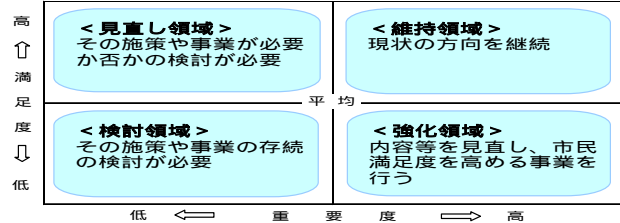
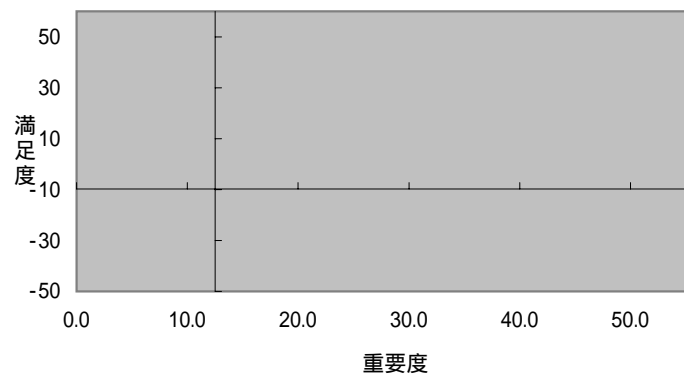
施策名 (小項目)	図書館・視聴覚ライブラリー	コード	03-02-05	作成者	このシート作成に要した時間	6.0 時間
		役職	図書館長	氏名	宇野信行	
		電話	64-1133			

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化と人が輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	生きがいのあるまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	豊富な資料や知識、様々な情報を市民に提供する学習施設として、利用の場を提供する。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	図書館は、本館、日生分館、吉永分館の3館あるが、各館とも閲覧室、書庫が狭いことから、広くて蔵書の充実した図書館が望まれる。また、視聴覚ライブラリーは、高度情報化に対応できる機材・教具の整備が望まれる。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の充実 視聴覚ライブラリーの充実 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21	H22
重要度(%)				
満足度(%)				



調査結果に対するコメント、市民の反応等	市民意識調査の自由意見で、図書館の蔵書数が少ないこと、吉永分館の存続、図書館施設の充実についてあった。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H19	H20	H21		H22	H28
成果指標 1人あたりの貸し出し冊数	目標	冊	3.5	3.5	3.5	H22	3.5
	実績	冊	3.3	3.2	3.1	H23	3.5
	達成率	%	94.3	91.4	88.6	H28	3.5
	ベンチマーク					-	-
参考指標 視聴覚機材の貸し出し団体数	目標	団体	100	100	100	H22	100
	実績	団体	72	88	72	H23	100
	達成率	%	72.0	88.0	72.0	H28	100
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H22	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H22	
	実績					H23	
	達成率	%				H28	
	ベンチマーク					-	-

施策構成事務事業の評価

施策を構成する 事務事業	事務事業 評価結果 A~E (高-低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)									施策への 貢献度	経費の 性質 義務的 経常的 その他	
				平成19年度			平成20年度			平成21年度					
				直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数			
1	図書館運営事業	C	図書館運営事業	単市	16,486	14,876	4.86	14,713	10,430	1.41	14,061	10,581	1.37		その他
			県図書館協会負担金	単市	9			12			12	30	0.01		その他
2	視聴覚ライブラリー運営事業	D	視聴覚ライブラリー運営事業	単市	216	894	0.15	107	512	0.09	1,300	441	0.07		その他
			県AVL連絡協議会負担金	単市	7			7			7	58	0.01		その他
					平成19年度			平成20年度			平成21年度				
					16,718	15,770	5.01	14,839	10,942	1.50	15,380	11,110	1.46		

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
生涯学習課	びぜん子ども読書ネットワーク事業	子ども読書関係者に研修会や交流会等の機会を設け、実践力向上とネットワーク構築を図り子ども読書活動の推進を目指す。

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	3	図書館については、市民1人あたりの年間貸し出し冊数を成果指標とし、図書館の利用促進を図っており妥当である。視聴覚ライブラリーについては、機材・教材の貸出団体(延)数を指標とし、ライブラリーの充実を目指しており妥当である。	
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か?	3	図書館の利用促進を図る上で、図書館運営事業は適当である。特に、横断検索システムにより県立図書館、他館の資料活用が図られている。視聴覚ライブラリー事業は、機材の利用はあるが、ビデオ等については利用が少ない。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	図書の貸し出し冊数はほぼ横ばい状況である。横断検索システム、移動図書館車のPRなどにより利用者増加を図り、目標達成を目指す予定。視聴覚機材の貸し出しについてもほぼ横ばい状況である。PR、教材等の更新により目標達成を目指す予定。	
本年度(H22年度)取組内容 (課題解決状況)		移動図書館車の巡回場所の見直しを実施する予定。また、子ども読書のネットワーク構築を図り読書活動の推進を目指す予定。視聴覚機材は老朽化しているものが多く、使用頻度の高いもの、資料として残すべきものを除き処分し、整理整頓する。	
翌年度(H23年度)取組目標		移動図書館車の巡回場所を随時変更する。子ども読書のネットワーク構築を図り読書活動を推進する。視聴覚機材、教材等について、高度情報化に対応できるものへの更新。	
二次評価者コメント		図書の貸し出し冊数はほぼ横ばい状況である。岡山県横断検索システムの共同利用等の促進により、ソフトウェアは充実しつつある。また、東備西播定住自立圏で赤穂市・上郡町等との相互利用ができる予定である。子ども読書計画の策定もしており、計画を実践することにより利用者数を増やさなければならない。今年度は、図書購入費を増額しており冊数の充実も可能である。しかしながら、市内に3箇所も図書館(本館・2分館)があり特化した図書内容の充実が図られず、魅力のない図書館となっているのではないかと、魅力ある図書館づくりが利用者数を増加させるものと思う。	
役職 氏名	教育次長 竹中 史朗	基本施策への 貢献度 3 中立	